

お互いの呼吸を感じて・・・対面定例会やセミナーも復活！

各支部の活動レポート



のように、ミカさんにたくさん弾いて頂き、みんな大感激。小さな生徒さんから中級レベルの生徒さんまで幅広く楽しめる曲集で、発表会やホームコンサートにピッタリの曲集でした。

コロナ禍でオンラインセミナーが主流ですが、やはり生の音で、お互いの呼吸を感じ、演奏したり話がができる対面セミナーはいいですね。お互い感染予防対策もできているので、今後も機会があったら開催したいと思います。

(記/永澤昌江)



対面の定例会が戻ってきた！

【石川支部】

石川支部友の会では、コロナ感染予防対策としてzoomオンラインを主流として来ましたが、今年度4月からは状況を見ながら対面で定例会を行っています。久しぶりの対面では、ギロックの「こどものためのアルバム」の楽曲分析と弾き合いをして、それに加えて、池田奈生子さんの新しく発売されたばかりの曲集3冊を手にすることができましたので、早速弾き合いをしました。なかでもAYAは、池田奈生子さんのオリジナルソロ曲集で「彩」と「綾」の2つの漢字「あや」がテーマになっています。日本の伝統的な文化や情景が美しく描かれていて作曲者の意図を感じました。

これからも、会員相互の情報交換、連携を取りながら活動していきたいと思っています。



後藤ミカさん（宗像支部）



後藤ミカさんの新刊セミナー 【柏支部】 4月5日

コロナですっかり遠ざかっていたキティハウスセミナー。久々の対面セミナーは、柏ギロ友特別定例会、豪華新刊3冊「ハノン・スケール」「夜風と花火」「ファーストステージ」を取り上げて、後藤ミカさんのセミナーを開催しました。

「ハノン・スケール」は『おもしろアレンジ伴奏付き』と書いてある通り、セコンドがとってもしゃれています。メンバーとミカさんで連弾しつつ、ワンポイントアドバイスを頂きました。「夜風と花火」の『だれがいるの?』は生徒がコンクールに出ることを想定して、演奏のコツをレクチャー、「ファーストステージ」はコンサート



セミナー中の様子



↑新しく完成したばかり！
会員さんのレッスン室で定例会
(記/ 冨田美智子)

【大阪支部】

大阪支部では、まだまだコロナ禍ではありますが、毎月定例会で集まって活動しています。そこでは「普段ひとりではできない連弾をしよう！」と取り組んでいます。昨年度は「ジャズピアニストのように」の連弾を全曲、ミュージックデータに合わせて録画しました。

今年度、取り組んでいるのは、後藤ミカさんの「ブルグミュラーでお国めぐり連弾曲集」です。エレクトーンを使って、色々な音色や、リズム等など工夫してアンサンブルにも変身させています※。池田奈生子さんの新譜、「EASY POP DUET 2」、「EASY BROADWAY DUET 2」、「AYA」も取り組む予定です。ひとりで演奏するのは、もちろん楽しいのですが、仲間と合わせて、毎回工夫しながら弾くことも楽しんでます。毎月定例会の動画を、Facebookにアップしています。協会HPにリンク先があります。(記/中熊昌実)

【長崎支部】

まだまだ、身近に感染症陽性者もいる中、久しぶりに、1時間のみ対面での定例会がありました。後藤ミカさん「ブルグミュラーでお国巡り」を、即興ペアを作り、即興演奏することに。特に「スティリアン・サーカス」では手が重なるので「手が密だよ～」なんて笑いながら演奏してくれるペアもいて、とても楽しかったです。やはり、対面での会は楽しいですね。(記/福田)

【仙台支部】

昨年11月以来半年ぶりの定例会を、5月に開催することができました。6月からは以前のように、仙台中心部の楽器店を会場に、毎月集まることにな

ります。時期は9月になりますが、ギロックコンサートを計画しています。

3月に起こった地震の影響で、県内の施設が何か所か使用できなくなり、演奏会の機会も限られる中、定例会やコンサートができるのは有難いことです。じかに顔を合わせ、ギロックに留まらず話題は多岐にわたり、話が尽きず離れがたかった再会でした。

(記/小野寺朋子)

【富山支部】

富山支部は、毎月zoomにて定例会を行なっています。定例会前半は、近況報告。発表会、出かけたコンサートの感想、楽しかった出来事や、美味しかったランチ情報まで、笑顔あふれるお話が飛び交います。続いて、弾き合い。現在「ピーニー動物園」を学んでいます。生徒の立ち場になり、難所をどのように練習し表現したらよいか、意見を出し合っています。

後半は、情報交換。普段のレッスンで起こる悩みや指導法について意見を出し合います。その後、実践しての経過についても共有し、意識を高め合っています。(記/平邑好美)



セミナーレポート ジェイコブ・コーラー 「Piano Bop」セミナーに 行きました！(5月9日)

枚方支部では、ジャズピアニストのジェイコブ・コーラーさんを招き、ジェイコブさんのピアノテキスト「Piano Bop」のセミナーを開催しました。ジェイコブさんと枚方支部との交流は結構古く(自慢♥)さかのぼること6年！地元で開催したギロックのイベントに参加して頂いた時からのご縁です。当日のセミナー会場には、テキストの使い方を知りたくていらしたピアノ指導者の方ばかりではなく、ピアニストジェイコブさんの熱烈なファンの方、中には新幹線に乗って来られた方も(!)。

受付にいた私は、ピアノマンのメロディーが聴こえてきた辺りからソワソワ・ワクワクが最高値に!。「Piano Bop」は第3巻までであり、今回の出版では、先生の伴奏パートも見直さ

れ、さらに使いやすいテキストに進化したそうです。

受講者の皆さんは順番に、ジェイコブさんとの連弾やセッションも楽しみ、このテキストで習う子どもたちの楽しさを体感できたのではないのでしょうか。また、英語音名が使われているテキストですので、枚方支部で作ったワークブックとの併用もいい感じかもしれません。(記/堀瀬真依子)



セミナー中のジェイコブさん



意外と気になる隣の定例会III 札幌支部 みんなとつながれて嬉しい!

大雪と学級閉鎖でレッスンの変更や雪かきに追われた長い冬が終わり、その後もオンラインを続けていた札幌支部です。・・・が、ついに、対面での定例会に向けて会場予約しました。メンバーに会える!!...春の訪れとともに身も心も軽くなった感じですよ!

コロナや大雪で閉ざされた世界では、みなさんとオンラインで繋がると、不思議と安心感があり、ちょっとした変化や刺激が嬉しく前向きな気持ちになりました。もう1年以上前になります。長崎支部と合同定例会をさせて頂いた時は、メンバーかなり張り切っていましたね。いつもより頑張っ練習してましたよ(笑)。日程が合わず伸び伸びになっていた愛媛支部との合同定例会も、もうすぐ実現出来そうで、これまた楽しみです。

先日は、たまたま、札幌支部の定例会と同じ時に集まっていた「Waku Waku2022」の方たちがお顔を見せて下さいました。短い時間



↑札幌支部定例会の様子

でしたがお会い出来て、とても嬉しかったです。

オンラインというのも良いものですね。支部の中での交流はもちろん、なかなかお会いする機会がなかった方とこんな風に繋がれるなんて！！コロナ禍の前は考えもしなかったです。

そんなつながりが嬉しいので、札幌支部では対面の定例会に戻ってもオンラインも残して行きたいねと話しています。第4月曜に定例会を開いてますので、合同定例会のお誘いや、ちょっと覗いてみたい時、メンバーが少なく寂しい時など、どうぞお声かけて下さい。

会員を募る機会を作ることが難しい中、支部の活動を知っていただくためにホームページやFacebookなどによる情報発信も必要かもという話も出てます。ただ、作っても維持できるかという問題もあり実現するか分かりませんが、ギロックやってます！と、のぼりを掲げて、みんなに知ってもらえるような何かが必要かも・・・と。

何だか、札幌支部、暖かくなって元気が出て来たような・・・色々楽しみます♪ (記/児玉ひろみ)



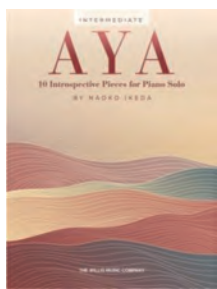
**池田奈生子さん（札幌支部）
待望の新譜3冊 発行！**

みなさんこんにちは！池田奈生子です。この2年、リモート定例会でお互いの近況を確かめ合い、時には他の支

部との交流をしながら活動してきた札幌支部ですが、今年はいつもの定例会に向けても動き出せそうです。皆さまの支部はいかがですか？今回は新しい楽譜3冊のご紹介です。

「Aya ～彩・綾～」

同じ音を持つ二つの漢字「あや」をテーマに、一枚の織物のように縦糸の響きや、横糸のメロディーを紡いだ中級レベルの10曲。この数年の自身の思いや、「もっと日本的な雰囲気を紹介したい」という編集さんの思いが織り込まれ、日本語タイトルも多く、過去の名作(?)も収録した 結構な力作となっております。



定価1600円

- (曲目)
 ベガ/蝶/白鳳/
 風神/友情/海/
 ロマンズ第1番(月)/
 ロマンズ第2番(海)/
 ロマンズ第3番(地球)/
 エレジー

「Easy Pop Duets 2」

皆さまお馴染みのギロックファミリー、グレンダ・オースティン、エリック・バウムガートナー、キャロリン・ミラーと一緒に編曲で4曲参加しました。中級最初のレベルで、シンプルで見やすい編曲の理由は「まずは気軽に、一緒に楽しむことが一番！」だから。そして二番は、お気に入りのアーティストの節回しやサウンドを加えて、二人のパフォーマンスを楽しむことで

1960年代から最近までの選曲で、

オリジナルもカバー曲も愛されているヒット曲ぞろいです。

- (曲目)
 Butter(BTS)/
 I will Always Love You(Whitney Houston)/
 We will Rock You(Queen)/
 Love Yourself(Justin Bieber) 他
 全8曲 定価1600円

「Easy Broadway Duets 2」

ブロードウェイでミュージカルスターを目指している気分になれる一冊。私は新しい演目もチェックできました。

- (曲目)
 One(A Chorus Line)/
 Popular(Wicked)/
 Tomorrow(Annie)、You' ll be Back(Hamilton) 他
 全8曲 定価1600円



 3冊ともに購入、お問い合わせは協会事務局、松原佳弥
 (090-1909-4116) まで

**◆セオリーオールザウェイ◆
小冊子販売中**

各種テキストをレッスンで使っている先生にも、併用ドリルとして使えると思いますので、ご興味のある方は枚方支部の杉野までお問合せください。
 (1冊1000円)



**◆教材研究セミナーご案内◆
ギロックの教材を使って**

- ・10月10日(月) 国立音楽大学 講師 西江恵子

YouTubeで大活躍！ギロック会員☆第2回 ジェイコブ・コーラーさんにインタビュー



聞き手/編集部・前田(以下M)：前回インタビューで挙げてくださった、ジェイコブさんのお気に入りギロック作品について、協会会員にも大人気の「秋のスケッチAutumn Sketch」ですが、ジェイコブさんのお好きなポイント、この曲への思い入れなど詳しく聞かせてください。

ジェイコブ・コーラーさん(以下J)：この曲はバッハのプレリユードみたいな感じですが、モダンなフィーリングもあります。右手のテーマは2つの音で左手のカウンターメロディーは3つの音です。このパターンがとても綺麗な和声進行で進んでいきます。この曲を聴くと紅葉が見えて、秋の気分になります。

M：紅葉が見える…ステキですね。同じくお気に入りとして挙げてくださった「聖日Fiesta」「フラメンコFlamenco」ですが、リズムに特徴のある作品をステキに演奏するコツがありましたら、教えてください。

J：テンポ感やグルーブ感を練習するためにとても良い曲だと思います。テンポをキープするのも大事なのですが、機械的ではなく、グルーブが体に沈み込むのがとても大事です。練習するときにメトロノームをかけて練習するのが良いのですが、同じようなスタイルの音楽もたくさん聴くのが大切だと思います。リズム&グルーブは上達しても演奏法の課題として、永遠に取り組み続けなければいけないと思います。

M：ジェイコブさんはギロック作品を課題として渡す時に、どのようなことを意識して、あるいは目的を持って、生徒さんに接していらっしゃいますか？

J：ギロック作品の特徴は、イメージがはっきりしている曲だということです。もちろん大切な技術がたくさん入っているのですが、全ては音楽的な目的があります。生徒さんに課題として曲を与えた時、一番初めに、曲の雰囲気、イメージ、フィーリングについて話すのが好きです。それから具体的に「キーはなんですか？」「何拍子？」など、音やリズムのミスがあれば、「これはドのシャープです」みたいにアドバイスを言うのですが、ダイナミックス、ritなどについては、なるべく、「このイメージを表現するために、どういうふうに演奏すればよいでしょうか？」みたいな問いかけもします。私が弾いてみて、生徒さんに弾き比べてもらうのも好きです。

M：「即興演奏(ピアノで遊ぶ)」という気持ちを大切にしたい」と前回インタビューでは話していただきましたが、例えばレッスンの中で、苦労された点などはありますか？お子さんの生徒さんと柔軟性もあるかと思うのですが大人になればなるほど、自分を解放することに慣れていらっしゃらない方もおられるのでは？と思います。

J：生徒さんによっては抵抗感を持つケースもあるので、その壁を超えるために色々工夫します。例えば、音階の全ての音を使う前に、音階の最初の2つの音だけで、適当に弾いてもらいます。生徒さんにチャレンジさせるのが非常に大事だと思うのですが、挫折するのは良くないので、各生徒さんのニーズに合わせてCustom Lesson

(生徒さんの要望に応えるコース(あるいはレッスン内容)を設定する)や、生徒さんのペースを作るのが大事だと思います。

M：ジェイコブさんのレッスンを支えているオリジナル曲集Piano Bopについて、作製に至るいきさつやきっかけを教えてください。

J：日本に引っ越して、英語でピアノレッスンをやりはじめて、そして即興演奏を子供に教え始めました。その生徒さんたちのレッスンのためにオリジナル曲を時々作っていました。数年が経つと、数百曲にも達していました。それを数年に渡って、レベル順に合わせて本を作ったのですが、1年を通してレッスンで使ってみて、やり直しもしました。長い間の試行錯誤でした。自分のプリンターで印刷して、しばらくレッスンに使って、曲順などを変えて、もう一度印刷してということは何十回と繰り返しました。実際に出版されるまでは10年ぐらいかかりました。協力してくださったのは教室の生徒さんたちでした。生徒さんたちのために、良いレッスンを提供するために・・・それが私にとって一番大きいモチベーションでした。

M：インタビューの締めくくりに、Piano Bopを使ってレッスンしてみたい先生たちへアドバイスをお願いします。

J：メインテキストとして使って頂ければ嬉しいですが、最初にサブテキストとして使ってみて頂いても嬉しいです。いつも使っているテキストにあまり反応してくれない生徒さんがいれば、その生徒さんにもぜひ使ってみてください。それで、テキストの中の指示、アドバイスなどはあくまでもヒントです。曲のバリエーション、音域を変える、など、想像力を使って楽しく音楽を演奏して頂くのが一番大切だと思います。

(ありがとうございました。次回は最終回です、お楽しみに！)



追悼 内田豊さん(全音楽譜出版社 前出版部長)を偲んで



在りし日の内田豊さん

～安田裕子会長～ 内田 豊氏 (全音楽譜出版社・前出版部長) を偲ぶ

ギロック・フェスティバルのパーティーでご存じの方も多いと思いますが、内田豊氏（全音楽譜出版社の前出版部長）が、2022年4月16日にご逝去されました。84歳でした。心からご冥福をお祈りいたします。内田さんの思い出は、私がギロックを広める活動を始めたのとほぼ同じくして始まりました。どのようにして内田さんと出会ったか聞いてください！

1991年の夏にギロックから8月16日付けの返事をもらいました。1992年6月に念願かなって、やっとギロックに会いに行くことができました。その時ギロックは自分の出版物を全部用意してプレゼントしてくれました。それに加えて、ギロックの音楽への情熱と哲学をわかりやすく説明して話してくれました。

日本では「叙情小曲集」と「発表会のための小品集」が、すでに全音から出版されていました。しかし、ギロックは最初の一步が大切であると、「はじめてのギロック」「ピアノ・

ピース・コレクション」「アクセント・オン」に収められているような子供の感性と音楽性、それに技術と音楽知識を高める作品をたくさん書いていました。

ギロックは、ただ単に美しい作品を書いた作曲家でないことに気づき、全音へ、ぜひギロックの他にもある作品を出版してほしいと、楽譜を添えて手紙を書き続けました。その時の出版部長が内田さんでした。

待つこと3年、ある日、内田さんから電話がありました。「ギロックを出版しましょう！」嬉しくて生徒の前であるにも関わらず涙があふれました。

1990年には京都の友だち5人と「ギロック友の会」を作って、みんなの前でギロックを弾いたり、音楽の話をしたり楽しい会を発足していました。そして東京の西江さんとも知り合うことができ、京都の「ギロ友」が「日本ギロック協会」と改名し、ギロックの楽譜出版とともに全国展開を始めました。

内田さんは、日本でより多くのギロック作品が出版されることで、もっと多くの人にギロックの音楽と教育に対する考えを広めることができると思われました。そして日本ギロック協会の活動により、今までギロックを知らなかった音楽仲間にギロックのすばらしさを草の根活動を通して知ってもらえると確信され、日本ギロック協会の発足当時からメンバーになっていただきました。

無名のピアノ教師であった私たちのバックボーンとなり、活動に陰となり日向となり、力を添えていただきました。東京で行ったギロックの行事にはいつも参加していただき、ある年のギロック・フェスティバルでは、ギターを弾かれる奥様が、ギター演奏で参加して下さったことがあります。

楽譜の出版や協会の行うギロッ

ク・フェスティバルだけでなく、もっと何かができるのでは？と私たちには大きな野望がありました。テレビ番組のコマーシャルでギロックを使ってもらえたら、ギロックの音楽の美しさをすごい数の人たちに知ってもらえることができるというように。それでツテを探して広告代理店を訪れて歩いたことがありました。その時も、何の後ろ盾もない私たちに内田さんが一緒にきてくださり、大きな信用を添えてくださいました。その時は残念ながら実現しなかったのですが、何年か後に海苔の佃煮メーカーの宣伝で「秋のスケッチ」が使われていました。このことが功を奏したかは不明ですが……。

内田さんが定年退職されてから、私が毎年日本へ帰るたびにランチデートをしました。はじめの頃は東京は不慣れだろうからと、駅のプラットホームで待っていてくださいました。そして帰る時も、迷わないようにと電車のホームまで送っていただきました。何年かして、協会本部の福井尚美さんと西江恵子さんがランチデートに加わってくださるようになり、賑やかなおしゃべりの時間を楽しみました。

内田さんは退職をされたにもかかわらず、精力的に音楽出版業界のために活動されて、あちこち飛び回っておられました。2012年に内田さんは今までの仕事の総まとめとして「全音楽譜出版社の出版社としての変遷」や「楽譜出版社の役割と個々の権利について～音楽文化の発展のために～」という論文を完成させられました。会った時にそれを、いただきました。イキイキとした笑顔で情熱的にその論文の内容をお話してください

ました。

自分の仕事に情熱を燃やし、誇りを持つ事の大切さを、間近に見せていただきました。

いつも礼儀正しく律儀なジェントルマンだった内田さん。人との出会いを大切に、人を尊敬することも内田さんから学びました。内田さんとの出会いがなかったら、ギロックや仲間の楽譜出版も実現しなかったかもしれないと思うと、内田さんからいただいたものの大きさを再認識せずにはいられません。健康上の都合や、コロナ禍に入ってここしばらくお目にかかれませんでした。

コロナ禍が終わり日本へ帰ってきたらまたぜひ会いましょうと、いつもメールに書いてくださっていました。それが、しばらく会えなかったまま、内田さんと再会できなくなってしまったことがとても辛く心残りです。このコロナ禍、なんとかならなかったのかと…。

内田さん、たくさんのことを教えていただき、ありがとうございました！これからも天国から見守っててください！（安田裕子）



安田裕子会長 / 内田豊さん / 福井尚美さん

～新居隆行さん (全音楽譜出版社)～ ミスター全音を偲んで

内田さんは、優しく、温かくて、心が広くて、何事にも真摯で、人情深く…そして、強い人でした。仕事

に対しては如何なる労も厭（いと）わない、そういう人でした。「自分は音楽については素人だから、誠意を尽くすより他はない」、そう思っていたようです。

全音の出版部長を長く務めていたから、内田さんのところには、音楽家や諸団体からコンサートなどの招待状がたくさん届きます。内田さんは余程の事情がない限り、そのすべてに足を運んでいました。同じ日に2つのコンサートが重なったときには、前半と後半に分けて両方に顔を出すようにしていました。

コンサートが終わると大抵夜の9時頃。そのまま帰宅すればいいのに、あの人は会社に戻ってくるんです。どうしてなのかと尋ねたら、ハンコを押しに戻ってくるのだと言う。つまり部長職である彼のデスクには部下たちから提出された書類がいくつも積まれていて、それに目を通して決済するために戻ってくるというわけです。「これをやっておくと皆が明日すぐに仕事に取りかかれるでしょ。」、そうニッコリ笑って答えた内田さんには心底頭が下がる思いをしたものです。いつからか、内田さんは「ミスター全音」と呼ばれるようになりました。全音社内だけでなく、社外の人々からもそう呼ばれるようになりました。

会社を退任されてからも、ずっと全音のことを、また、日本の音楽業界のことを気に掛けておられました。きっと今も、天国で我々のことを気に掛けてくれていることと思います。だから私は「安らかにお眠りください」とは言いません。言ってもむだだと思えますから。「内田さん、どうかこれからも、私たちを見守ってください。」

(全音楽譜出版社 新居隆行)

～西江恵子さん(東京支部)～

内田部長様に初めてお会いしたの

は、今から30年近く前、全音楽譜出版社の一室でした。当時はまだ日本であまり知られていなかった作曲家、ウィリアム・ギロックの曲を受け入れて全音から楽譜を出版して下さり、その楽譜出版に伴って、私の演奏したギロックの曲集「アクセント・オン1・2」「ピアノピース・コレクション1・2」「はじめてのギロック/こどものためのアルバム」の3枚のCDを全音楽譜出版社から発売して下さいました。発売までの経路など解らない事ばかりでしたが、とても親切に話して下さいました。それ以来大変お世話になりました。なんと温かい方だろう！と、今も感謝の気持ちでいっぱいです。

今はギロックの曲が日本全国に広がり、小さな子供から大人まで広く愛され、親しまれています。あるピアノの先生は「ギロックの曲は練習してくるが、他のものは練習してこない！」とこぼされたり、音大生の中には「私はギロックで育った！」と楽しそうに話されたり、コンクールの課題曲になったり…いずれも楽譜が出版されたからこそであり、内田様の大きなご助力の有難さを日々痛感しています。

そして、全音楽譜出版社を定年退職されてからも「年1回会いましょう」と声をかけて下さり、カナダから安田裕子さん、大阪から福井尚美さん、東京に住んでいる私を含めて4人で集まる機会を作って下さいました。その第1回目がたまたま7月7日の七夕に当たり、それから毎年七夕の日をめざして食事会をする事になりました。でも一昨年以来、コロナの影響でその食事会が出来なくなり、昨年夏にも「コロナが収まってからの楽しみに！」と電話でお話しておりましたのに、、、悔やまれてなりません。心からご冥福をお祈りいたします。

(西江恵子)

MASA先生とHillockのチャットdeギロック！第11回

モチーフがとても魅力的！「八調のプレリュード」



Hillock
こと安田裕子
(以下H)：マサ
先生、こんにち
は！お元気です
か？今日はギ
ロックが亡くな

ってから出てきた「八調のプレリュード」を取り上げたいと思います。あまり知られていない曲だと思うのですが…「ギロック・ベスト」の第4巻に収められています。



MASAこと松田昌(以下M)：
安田先生、ご無沙汰しています。よろしくお願ひします。「八調のプレリュード」、どんな曲でしょうか？楽しみです。



H：「八調のプレリュード」のお話の前に…パリ郊外に住んでいる、ギロックの甥ジョン・ギロックを訪ねた時に、ジョンがギロックの遺品を見せてくれたことがありました。その中に「4つのプレリュード」と題して、「10月の朝」Prelude in G major、「音もなく降る雪」Prelude in E flat minor、「荒れ果てた舞踏室」Prelude in G minor、「八調のプレリュード」Prelude in Cの4曲がひとつにまとめられていました。

ギロックはこの4つのプレリュードの表紙に「ジョンのために」と書いています。きっとプライベートで大切なものだったのだらうと思います。叙情小曲集が出版される前です。この「4つのプレリュード」を皮切りに、曲集としてどのようにまとめようかと、ギロックは考え始めたのでしょう。ちなみに、「荒れ果てた舞踏室」以外は、3曲とも8小節と10小節の短いプレリュードです。



M：なるほど。叙情小曲集、素

敵な曲ばかりで、なおかつ弾きやすい！僕も大好きな曲集です！No3ト長調「10月の朝」と、No4ト短調「荒れ果てた舞踏室」と、No20変ホ短調「音もなく降る雪」の3曲が、「4つのプレリュード」から叙情小曲集に収められたのですね？「八調のプレリュード」は知りませんでした。

曲の長さが短いことですが、最初は「こんな短い曲が曲集に載っているの？」と思いました。でも、いろいろな作曲家の子供のための曲集を見ると積極的に作られていることが最近わかってきました(笑)。教育的な見地から考えると、とても大切なことなんですね？



H：「10月の朝」を甥のジョンのために書いたのが、叙情小曲集の始まりです。だから、きっとこの曲も幼いジョンがピアノを練習するために、音楽のエキスがいっぱい詰まった短い曲を書いたのだと思います。ギロックは、調性を大切にしていたので、「10月の朝」G majorに対して「荒れ果てた舞踏室」G minorというふうに同主調を意識しています。



M：叙情小曲集は、バッハの平均率のように、12の長調と12の短調の合計24調の曲で構成されていますね？1曲ずつは小さな曲ですが、きっとギロックの全作品の中で、とても大切な位置づけになっていると想像します。バッハは12の長短調を半音ずつ上げて並べ、ギロックは調号の#を1つずつ増やして並べているのが、面白いです。



H：私は、それぞれの作曲家は、自分が心地よい順を選んでいるように思いました。だからどれを聴いてもその順で心地よい流れができています。ギロックは「アクセント・オン」でもそ

うですが、5度の循環を教えています。だから、叙情も5度の循環で進んでいきます。それと同主調の短調にうつるのは、鍵盤上で和音を弾いている時、たった一つの音が違う音へ移ることで、全く違うエモーションが広がることにすごく感激というか、魔法感を感じて、生徒たちにも伝えたいと思いました。だから同主調の短調を持ってきています。だから「ピアノ・オール・ザ・ウェイ」でも和音が出てきたら短調でも弾かせています。

ギロックが「アクセント・オン 長調と短調」も書いているように、調性はギロックの教えで大切な部分です。

「叙情小曲集」の初めに書かれていますが、他のプレリュード集では、長調の後に平行短調がくることが多いのですが、ここでは同名短調を持ってきています。これはウィリアム・オトゥールの考えに従ったもので、バッハやドナルド・トヴィ※の考えに習っているそうですよ！（※編集部注：ウィリアム・オトゥール（1900年代半ば音楽家、作曲家として活動）／ドナルド・トヴィ（Sir Donald Francis Tovey 1875-1940音楽学者、作曲家）／叙情小曲集の前書きには、オトゥールがバッハやドナルド・トヴィ卿の考えを見本として学び理論立てたものに、ギロックが賛同している、とある。）

さて、「八調のプレリュード」に話に移しましょう。moderatelyなので、はじめはゆっくりめに弾いていたのですが、ちょっと速く弾くと全く違った感じになるのですね！とっても新鮮な感じがしました。それとちょっとメロディーのリズムをいじってみるとジャズっぽくもなるし。短くシンプルなので色々な試みができるな～と遊んでしまいました！Simply and longingこれは甥のジョンによって書き加えられました。



私は、「4つのプレリュード」ではこの曲が最後に来ていることから、前の3つの物語をまとめて、「こんな素敵な物語がありました！」と締めくくっているファンファーレかなと思いました！ マサ先生は八調のプレリュードを弾かれてどう思われましたか？



M：「素晴らしく魅力的な曲だなあ！」が第一印象でした。ギロックの作品を弾いてよく思うのですが、モチーフがとても魅力的なんです。少し細かくなりますが、私見を書かせていただいてもいいでしょうか？

①アウフタクトの2つの8分音符で上行する「ソラ」が第1モチーフで、この曲に出てくる5つのフレーズ全ての最初に使われています。フレーズをお話しと考えると、話始める時の「あの・・・」のような、押し付けがましさをしない導入感を感じます。それと全体をまとめる役目をしています。

②次の「♭シド♭シラ」の4音がこの曲のメインのモチーフ。「♭シ」から2度上がって2度下がる、柔らかいウネリを持っています。3度下降して「ソラソファ」と繰り返して使われたり、単独で使われたりします。

③3つめのモチーフは「ソソー」の同音連打。これは1回しか出てきませんが、前の2つの柔らかいイメージのモチーフの流れを堰き止める大切な役目をしていると思います。

僕はこの曲は、未完成かもしれない？（ギロックは、5小節目あたりをもう少し推敲を重ねたいと思っていたかもしれない）と想像しています。

ト長調の「10月の朝」とト短調の「荒れ果てた舞蹈室」を完成し、叙情小曲集の構想を始め、1曲目の八長調にこの「八調のプレリュード」を使おうと思っていたところ、24曲の冒頭の曲としてふさわしい「森のざわめき」が完成したので、そちらを1曲目に使ったのではないかと勝手に想像をしました。

また、和音的にも「八調のプレリュード」と銘打ちながら最初は、Gm/C→Cと八長調の色が強いので、叙情小曲集の1曲目に使わなかったんだろうな〜、と想像します。ギロック先生にお会いできたら、聞いてみたいところですよ。



H：未完成のものは別にまとめてあったこと、4曲をまとめて冊子にしてあったのでこれは完成したものだと思います。でもこれを使わなかったのは先生がおっしゃるように諸々の事情があったのでしょね。



M：なるほど。僕が感じたのは、この曲の和音は、1小節目C7sus4、2小節目Cadd9th、6小節目Dm7-5 11th、7小節目CM7、Am7、FM7、D7#11thと、かなり緊張のあるサウンドなのに、5小節目の3拍目はCの3和音の響きがあるから、「あれっ」という感じです。コードネームとしてはC6なのですが、「ラ」はかなり消えています。



H：結局叶いませんでしたが、魔法のピアノに入っている「パリの想い出」をもっと大きく膨らませたい！と、ギロックが気分のいい日に言っていました。そんなふうに、八長のプレリュードも元気だったら手を加えていたかもしれませんね！

もしこの曲を使ってくださいってお願いしたら、どのような使い方ができると思われますか？



M：う〜ん・・・使うというのは、どういう意味でしょうか？



H：すみません、演奏するって言うことです！8小節の短い曲なのですが、これを印象深い曲にするにはどんなアイデアがあるでしょうか？例えば、ミファソラソファミをゼクエンツで使って見るとか、ソラシ♭ドシラ

ソラソファソソーというテーマを調を変えて再び持ち出すとか・・・（単純極まりない！）



M：さっき申し上げたようにモチーフがとても魅力的ですから、いろんな作り方ができると思います。

①安田先生がおっしゃるように、この続きの9小節目に、最初の部分を完全4度上げたような形、「ドレ」「♭ミファ♭ミレ」と持ってきて、ちょっとコードは変化をつけて、「Cm」→「Dm」で始める。

②ドビュッシーの「沈める寺院」の真似をして、八長調にして「レミ」「ファソファミ」のメロディーにして、それぞれを「Dm・Em」「F・G・F・Em」のコードで平行に動かし、左手は「ドーソー」の音でなんかリズムを作る。

③最後の7小節目は、「ミCM7→ドAm7→ラFM7→ソD♭7」から「ソC」に入っていますが、「ミCM7→ドAm7→ラFM7→ソEm」から「ラA」とか、「ミCM7→ドAm7→ラFM7→ソE♭」から「ラD」なども、とてもいい雰囲気になると思います。いずれにしても、僕は教会旋法的な、あるいはドビュッシー的な方向性を考えてしまいます。



H：マサ先生、これを鍵盤ハーモニカで演奏したら、すごく印象的な曲になると思いませんか？



M：そうですね〜！牧歌的な情景をイメージして、角笛風に「ソラ」を「タヤッ」、「♭シド♭シラ、ソラソファ」を「タヤッタタ、タヤッタタ」、「ソソ〜」を「タッタ〜」というアーティキュレーションで、「タヤッ、タヤッタタ、タヤッタタ、タッタ〜」とやると、とても気持ちよく吹けそうです！



WakuWaku ピアノフェスティバル 2022 開催します！



みんなが主役！ みんなでピアニスト！！

WakuWaku ピアノフェスティバル2022

WakuWakuピアノフェスティバルはオンラインを使用したウィズコロナ時代の新しいスタイルのピアノフェスティバルです。誰もが気軽に参加でき、参加者は全ての演奏を視聴できます。参加した演奏者全員に賞が与えられ、オンライン・アワードセレモニーでは各賞の中から選ばれた演奏者とゲストの方々の楽しいお話をリアルタイムで楽しんでいただけます。

「WakuWakuピアノフェスティバル」は、参加されるみなさんの「じゃよう弾けたよ、聴いてね」という気持ちをお届けします！

オンライン・アワードセレモニー ゲスト・コメンテーター

（ピアニスト、作曲家）
（ピアニスト、作曲家）
（ピアニスト、作曲家）
（ピアニスト、作曲家）
（ピアニスト、作曲家）

WakuWakuピアノフェスティバルがWakuWakuな理由

- 参加者全員に温かなコメントが届きます。
- 年齢やレベルの垣根なく参加できる。
- 全員に賞があり、初心者の方も活躍！
- 沢山のバラエティ豊かな演奏が聴ける。

日程 2022年

エントリー受付期間 **7/1(金)～8/31(水)**
【最大応募数 全部門合計300エントリー】
※応募者数に達しない場合は、受付終了直前に締め切ります。

演奏動画の提出締切 **9/20(火)**
動画公開期間 **10/10(月・祝)～12/25(日)**

オンライン・アワードセレモニー
※日時は変更となる場合がございます。
10/30(日)

参加料 全部門1エントリーにつき【一般】3,000円【会員】2,500円（日本円決済）※海外からの参加者は別途お支払いください。

収録曲（演奏に掲載）
ソロ部門 38曲/連弾部門 19曲/アンサンブル部門 31曲

詳細・エントリーはこちらから！
WakuWakuピアノフェスティバル2022 Q

※2021 ダイジェスト動画 詳細・エントリー

※2022

【お問い合わせ】 WakuWakuピアノフェスティバル事務局（オンラインサポートセンター） 03-5471-6860/03-5279-4470 waku@pianosociety.jp

今年も夏休みと共にWakuWakuピアノフェスティバルの季節がやってきました。

コロナ禍が始まった2020年に会員の皆さんやピアノの愛好者の方々が楽しく集える機会が作れないかと試行錯誤しながら続けてきたこのイベントも3回目を迎えることになりました。

ギロックの曲を中心にゲストコメンテーターの作曲家の方や、会員の作曲家の皆さんの素敵な曲も取り入れて弾く人も聴く人も楽しめる課題曲を決め、ソロや連弾で、会員の皆さんも生徒さんも、また先生と生徒、ご家族でピアノを弾いて楽しめるひと時をオンラインの上に表現しました。イベントの最後には頑張った皆さんの演奏と共に安田会長をはじめとしたコメンテーターの方々の和やかなお話が楽しめます。どんな様子が気になる方はどうぞ昨年のダイジェスト動画を覗いてみてくださいね。

オンラインアワードセレモニー 第一部ダイジェスト
<https://youtu.be/dsys1cFpZpo>

オンラインアワードセレモニー 第二部ダイジェスト
<https://youtu.be/fnm-gYaHDTs>

今年も会員の皆様とWakuWakuピアノフェスティバルの会場でお会いできるのを楽しみにしています。（詳細は同封のフライヤーをご覧ください）

池田奈生子さん新譜 AYA ～彩・綾～を弾いて

奈生子さんの作品と出会って、20年が経ちます。奈生子さんから「新譜が出来上がりました」と、お知らせがあり、会報で紹介するための紙面を考え、初めて出会う五線上の音符をひとつひとつ奏でる…とても有り難い機会を長く頂いています。不思議なもので、奈生子さんの作品の背後には、年月を重ねてもいつも同じ空気が流れ、変わらぬ世界…星空や静かな水面、草花や木々の鮮やかな色合いが存在します。「AYA」は、奈生子さんによると、コロナパンデミックという「いつもとは違うペースの中で、『伝統的な日本の雰囲気と今を、音楽で感じてもらえる一冊を！』と完成させたコレクション。（AYA…前書きより）」とあります。その言葉通り、「日本」を音楽の根底に感じます。

しかし、今までの作品以上に、奈生子さんが書きたいように書き、音楽の展開も奈生子さんの行きたい方向へ行く…そこには「大きな自由」があり、「いさぎよさ」があり、そんな風感じられたのは私だけでしょうか。

どの作品も奈生子さんワールド満開で素敵です。私のイチ押しは、大好きな「2つのロマンス」に「地球」が加わって「3つのロマンス」になった3曲。二人姉妹だと思っていたら、小さな妹が誕生して3姉妹になったようで…♪これから大切に弾きたい、奈生子さんの作品集です。

（編集部 前田）

2022年度年会費納入のお願い

2022年7月～2023年6月30日までの年会費（3,000円）の納入をお願いします。

会費の振り込み方法は以下よりお選びください。

- 1, 今回同封の振込用紙をお使いください。
- 2, ゆうちょ銀行間のお振込み（ATMなど）にご利用いただく記号・番号
記号 **009008** 番号 **144349**
- 3, 他の金融機関からお振込みの際にご指定いただく店名・口座番号

店名 **0九九（ゼロキュウキュウ）店**

店番 **099**

預金種目 **2 当座預金**

口座番号 **0144349**



<長すぎる！編集後記 vol.2>

～黄色も緑もあるよ～

前回の長すぎる編集後記・・・思いがけず励ましやご感想を頂き、心の中で小さな勇気がわきました（笑）前回はショパン国際コンクールのお話に触れたので、YouTubeのライブ配信、アーカイブ視聴などで楽しまれた方も多くいらっしゃったのでしょうか。今さらながらショパン音楽の魅力、そして新時代の若きピアニストたちの活躍ぶりに、感動の日々です。

（しばらくオールショパンプログラムはいいわ・・・と言ってショパン疲れ？を見せていた友人が、入賞者のオールショパンプログラムのチケットを確保済み☆）

そのような中、事務局のKayaさんより、「反田恭平さんが、幼稚園の頃に演奏した『ガラスのくつbyギロック』動画の存在を教えてくださいました。（題名のない音楽会で放映されたようです。）残念ながら、動画を視聴することはできなかったのですが、その動画を見た方々の感想を、ネット上でチラホラ見かけました。・・・と、同時に見かけた表現に驚きました。「男の子である反田さんに、なぜ『ガラスのくつ』を、先生は選曲したのでしょうか？」

私には、幼稚園の先生をしている大人の生徒がいます。小さなお孫さんがいらっしゃるの、先生としては大ベテランの方です。4～5年ほど前になるでしょうか、その方が、園児用に製作作業をしていたときに、新人の先生の様子を見て、このようなアドバイスをされたそうです。「ピンクと青だけではなく、黄色や緑色でも作っておいてね。ピンクが好きな男の子がいるかもしれないし、いろんな子がいろいろな色を取りやすいように。」

当時、幼児教育、保育の現場では、ジェンダーフリーに関するセミナーが増え、その方も勉強する機会があったそうです。小学生のランドセル売り場は、すでに赤や黒だけではなく色とりどりで、好きな色を子どもたちが自由に選んでいました。そして、ふと、思いました。発表会などの曲を選ぶとき、頭のどこかで「男の子だから、女の子だから、」で選曲の判断をしていないかと・・・。（少し前までは、男の子に人気の曲、女の子に人気の曲などの特集が、音楽誌でも取り上げられていましたが、私が子どものころ好きだった曲は、だいたい男の子に人気の曲です（笑）。）

知らず知らずに思い込んでいる、思考の「くせ」のようなものが人にはあるのかもしれない。時代の流れにより変化していく物事もあります。今日も柔らかい頭で、レッスンにくる生徒たちとともに、しなやかにピアノと向き合えたらいいと思います。（編集部/前田）

